



堺化学工業株式会社

2024年3月期

中間決算説明会

2023年12月1日

【東京証券取引所・プライム市場 証券コード：4078】

本説明会のポイント

事業環境が想定より低調に推移し、減収減益。下期も大幅な回復は見込めないため、通期予想を下方修正

- 成長事業と位置付ける電子材料・化粧品材料は、現中期経営計画のもと積極的な設備増強を実施したものの、年度内は市況に連動した緩やかな回復にとどまる見込み
- 化粧品材料は、国内向けは回復。欧米での在庫調整や中国の景気減退などの影響も受けた
- 樹脂添加剤は、東南アジアでの非鉛化の進展を受けて鉛系の生産設備の稼働が落ち込んだ。非鉛系製品の販売を強化し、収益基盤の移行を加速していく
- 酸化チタンは、安価な中国品の輸入増など外部環境が悪化。既存の価格是正だけでなく、更なる追加策を講じていく。

目 次

- 1. 2024年3月期中間業績結果&セグメント別結果**
- 2. 期初見込みからの乖離と今後に向けて**
- 3. 株主還元（配当） ・ 設備投資等見込**

1. 2024年3月期中間業績結果&セグメント別結果

2024年3月期 中間決算業績概要 (対前年同期比)

(百万円)

	2023.3 2Q		2024.3 2Q		増 減	
		売上高比		売上高比		
売上高	42,694	—	40,471	—	▲ 2,222	▲5.2%
営業利益	3,267	7.7%	917	2.3%	▲ 2,350	▲71.9%
経常利益	3,830	9.0%	885	2.2%	▲ 2,944	▲76.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,871	6.7%	▲ 2,033	—	▲ 4,905	▲170.8%

➤ 減収減益要因

酸化チタン事業において、安価な中国品の国内流入増加による市場環境の悪化により、販売数量が落ち込み、生産調整による稼働率の低下の影響もあり、減収減益となった。

➤ 補足 (当期純損失について)

繰延税金資産の取り崩し (1,932百万円) を実施したため、当期純利益はマイナスとなった。

事業別売上高・営業利益（対前年同期比）

		2023.3 2Q	2024.3 2Q	増 減	
化学事業	売上高	38,572	36,313	▲ 2,259	▲ 5.9%
	営業利益	4,163	1,896	▲ 2,266	▲ 54.4%
医療事業	売上高	4,122	4,158	36	0.9%
	営業利益	240	144	▲ 95	▲ 39.6%
全社費用	売上高	—	—	—	—
	本社部門費	▲ 1,136	▲ 1,124	12	—
合計	売上高	42,694	40,471	▲ 2,222	▲ 5.2%
	営業利益	3,267	917	▲ 2,350	▲ 71.9%

(百万円)

➤ 化学事業:減収減益

酸化チタンを中心に販売数量が大きく減少した影響で減収減益となった。

➤ 医療事業:増収減益

サプリメント等の新規事業品の販売量が伸びてきたこと、また、既存事業である医療機器のリニューアル品やOTC医薬品の販売量が堅調に推移したことで、増収となった。しかし、バリウム造影剤やアルロイドGでの、販売数量の減少や薬価切り下げの影響が大きく、減益となった。

貸借対照表について

金額単位：百万円

連結貸借対照表	2023.3	2023.9	増減
流動資産	72,101	76,250	4,149
現預金	12,409	15,645	3,235
① 棚卸資産	30,125	30,231	106
固定資産	55,920	55,325	▲ 595
有形固定資産	46,761	46,635	▲ 126
② 無形固定資産	1,368	1,257	▲ 110
投資その他の資産	7,790	7,432	▲ 358
資産合計	128,201	131,575	3,554
流動負債	29,237	31,066	1,828
固定負債 ③	14,066	19,853	5,786
負債合計	43,304	50,919	7,615
純資産	84,717	80,656	▲ 4,061
負債・純資産	128,021	131,575	3,554
自己資本比率(%)	62.9	60.5	▲ 2.4
有利子負債(合計)	21,642	23,371	1,728

① 棚卸資産増減要因（期末決算調整含む）

数量影響：▲600百万円（対前期末比）

単価影響：+700百万円（対前期末比）

=====
合計：+100百万円

前期末にかけ増加した棚卸資産について、生産調整を行った結果、数量は減少した。

② 投資その他の資産の主な増減要因

A：投資有価証券の評価額による影響額
+1,012百万円

B：繰延税金資産の取り崩しによる影響額
▲1,932百万円

③ 固定負債の主な増加要因

転換社債の発行：3,000百万円

長期借入金：1,995百万円

キャッシュフロー計算書について

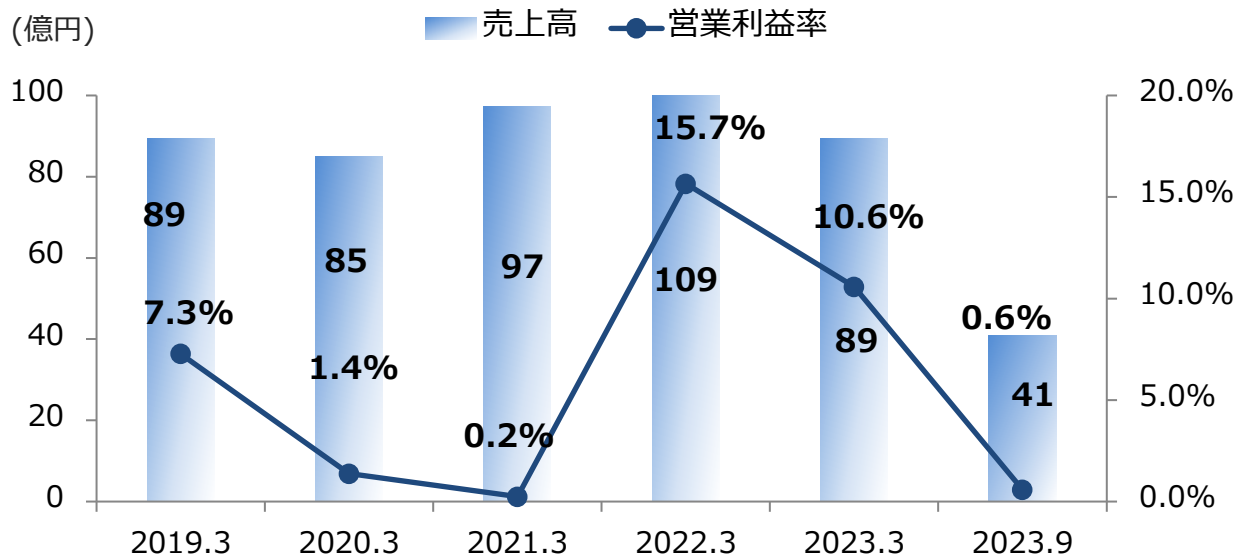
(FCF = 営業CF + 投資CF)

単位：百万円	2022.4~9	2023.4~9	増減
期首現金残高	10,549	12,188	1,639
税前利益	4,218	773	▲ 3,445
① 減価償却	2,191	2,255	64
棚卸資産	▲ 4,860	60	4,920
その他	▲ 427	99	526
営業CF	1,122	3,187	2,065
設備投資	▲ 1,319	▲ 1,646	▲ 327
株式売却	181	60	▲ 121
その他	▲ 147	▲ 39	108
投資CF	▲ 1,285	▲ 1,625	▲ 340
FCF	▲ 163	1,562	1,725
② 長短借入金	1,620	1,704	84
社債発行		3,000	3,000
子会社株式取得		▲ 2,631	▲ 2,631
③ その他	▲ 614	▲ 486	128
財務CF	1,006	1,587	581
期末現金残高	11,667	15,524	3,857

① 棚卸資産の圧縮により、営業CFを改善。

② 転換社債を発行し、
3,000百万円を調達。

③ 堺商事株式会社を完全子会社化するため、
2023年9月末時点で2,631百万円計上。
総額では、約3,200百万円になる見込み。



● 前年同期比較 (百万円)

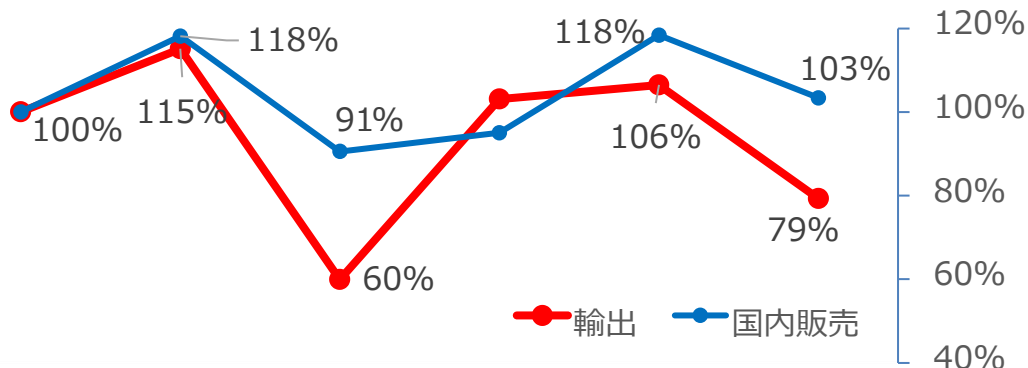
	2022.9	2023.9	増 減	
売上高	4,956	4,097	▲859	▲17.3%
営業利益	753	24	▲729	▲96.8%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 出荷数量が減少した。(前年同期比 ▲25.2%)
前期下期以降よりパソコン・携帯電話などの民生用機器向け半導体市場の低迷が続いており、当社誘電体(チタン酸バリウム)・誘電体材料(高純度炭酸バリウム)ともに出荷数量が減少したため、減収減益となった。

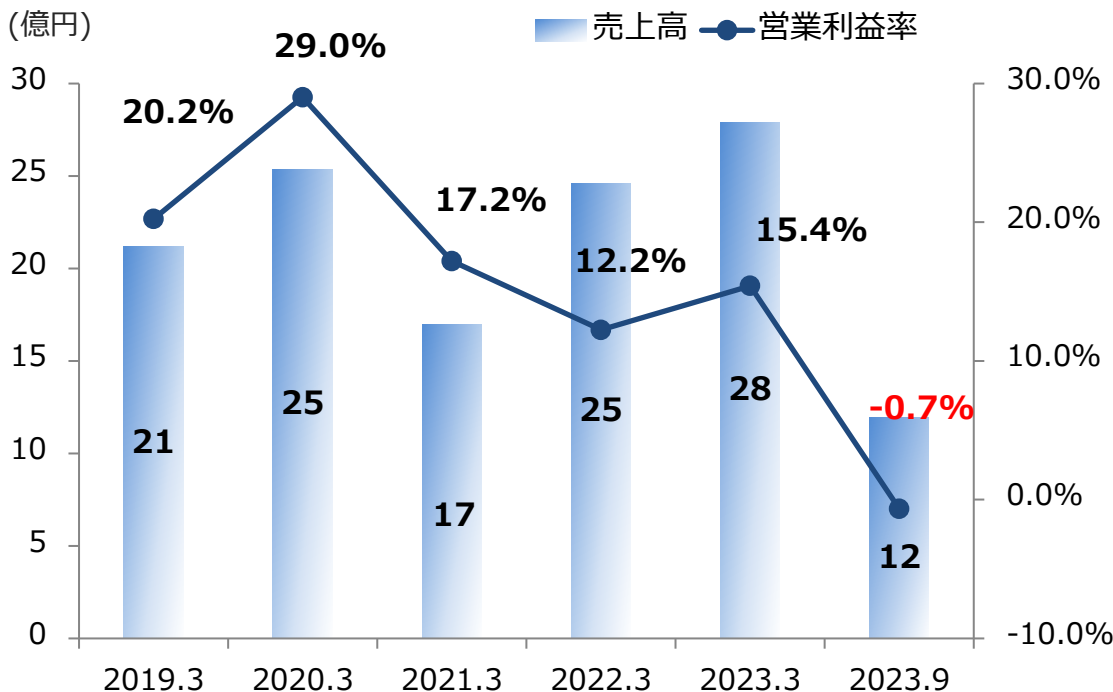
化粧品材料

(* 2019.3期の月平均出荷数量を100とした、国内外の販売数量推移)



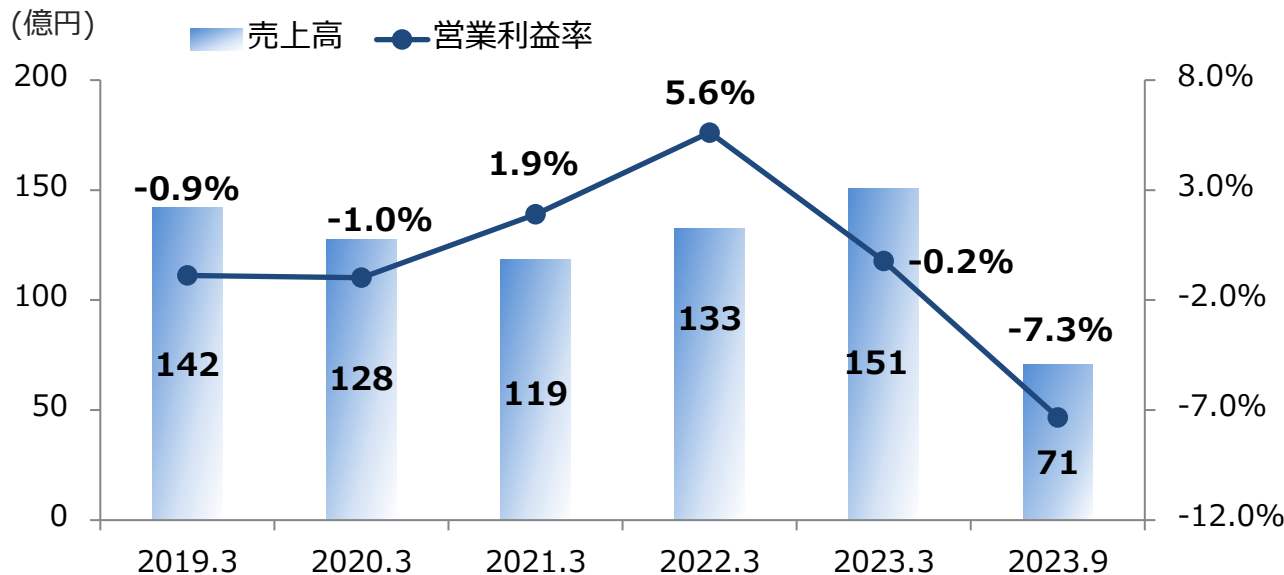
2024年3月期 中間決算のポイント

- 特に海外向けの販売の落ち込みが大きかった。
- 販売数量は、全体で対前年同期比 ▲16.9%
- また在庫圧縮に向けた生産調整も影響し、工場休止費用を計上した結果、営業損失となった。



● 前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増 減	
売上高	1,348	1,194	▲154	▲11.4%
営業利益	203	▲8	▲211	▲103.8%



● 前年同期比較

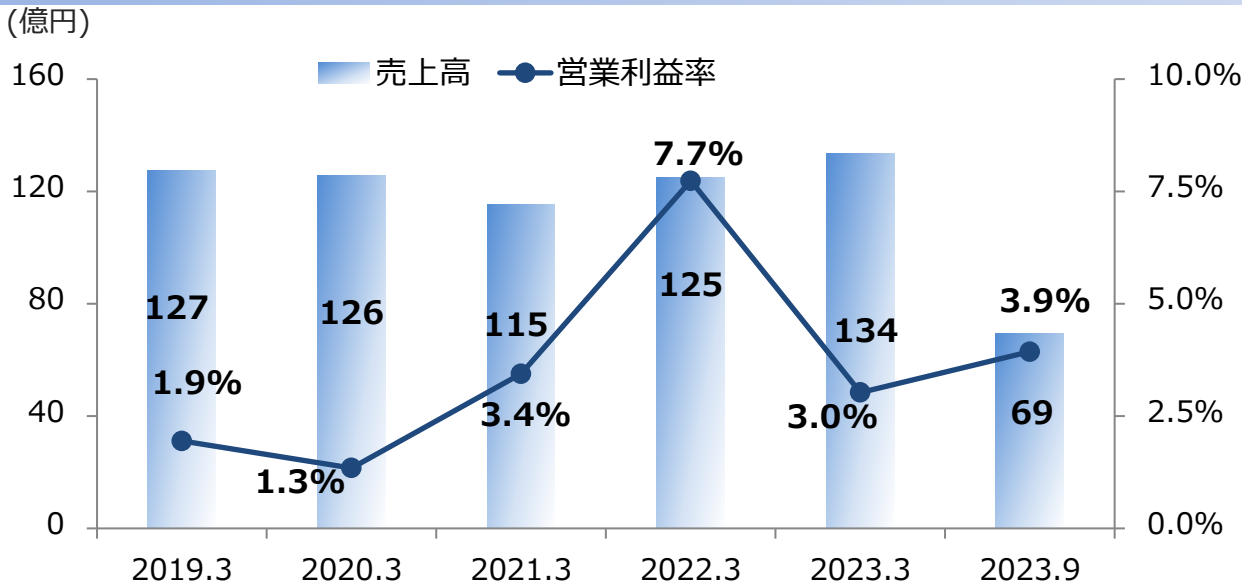
(百万円)

	2022.9	2023.9	増 減	
売上高	7,596	7,082	▲514	▲6.8%
営業利益	362	▲519	▲881	▲243.4%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 酸化チタン：価格改定は徐々に市場に浸透しているものの、安価な中国品の攻勢で市場環境が悪化し、前年同期に比べ出荷数量が減少し、稼働率も低下したことで減収減益となった。（数量：▲20.4%）
- 亜鉛製品：自動車タイヤ向けなどの販売数量が堅調に推移するも、亜鉛相場が前年同期よりも大きく下落し、相場に連動する販売単価がその影響を受けたので、減収減益となった。

樹脂添加剤

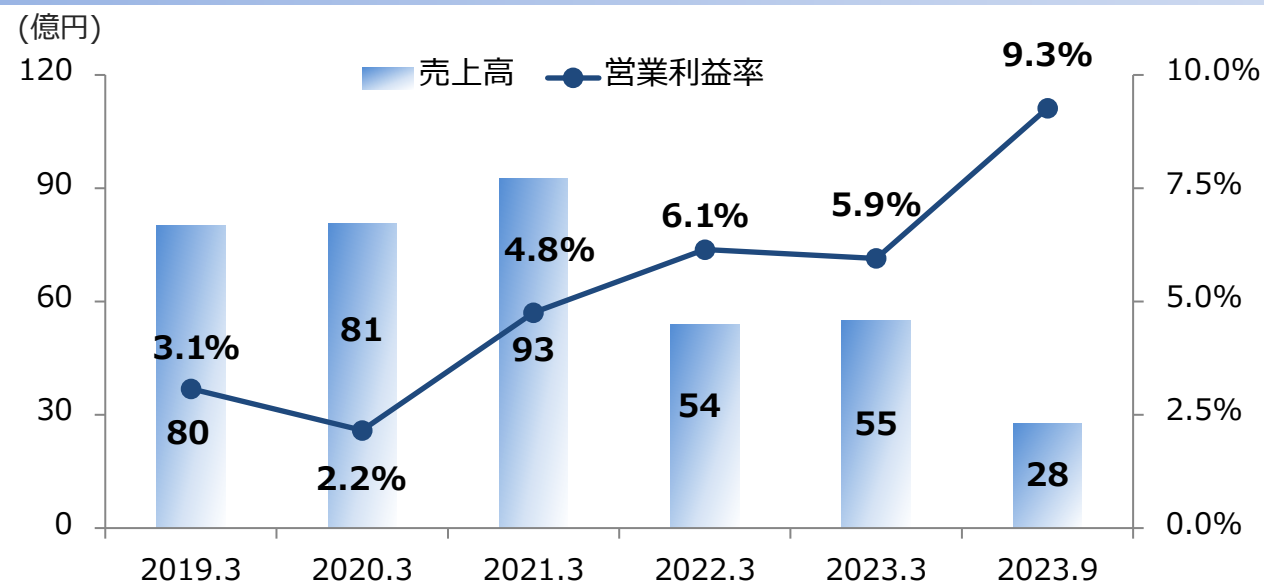


● 前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増 減	
売上高	6,712	6,944	232	3.5%
営業利益	312	273	▲39	▲ 12.5%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 国内向けは、価格改定は市場に浸透しているが、住宅など、幅広く使用される建材や継ぎ手・パイプなどのPVC需要が低下した影響で、販売数量が減少したため、減収減益となった。
- 海外向けは、鉛系から非鉛系安定剤への切り替えが進む中、タイでの鉛系安定剤の販売量が減少したものの、同国及びベトナムでの非鉛系安定剤の販売数量が増加し、価格改定の市場への浸透もあり、増収増益となった。



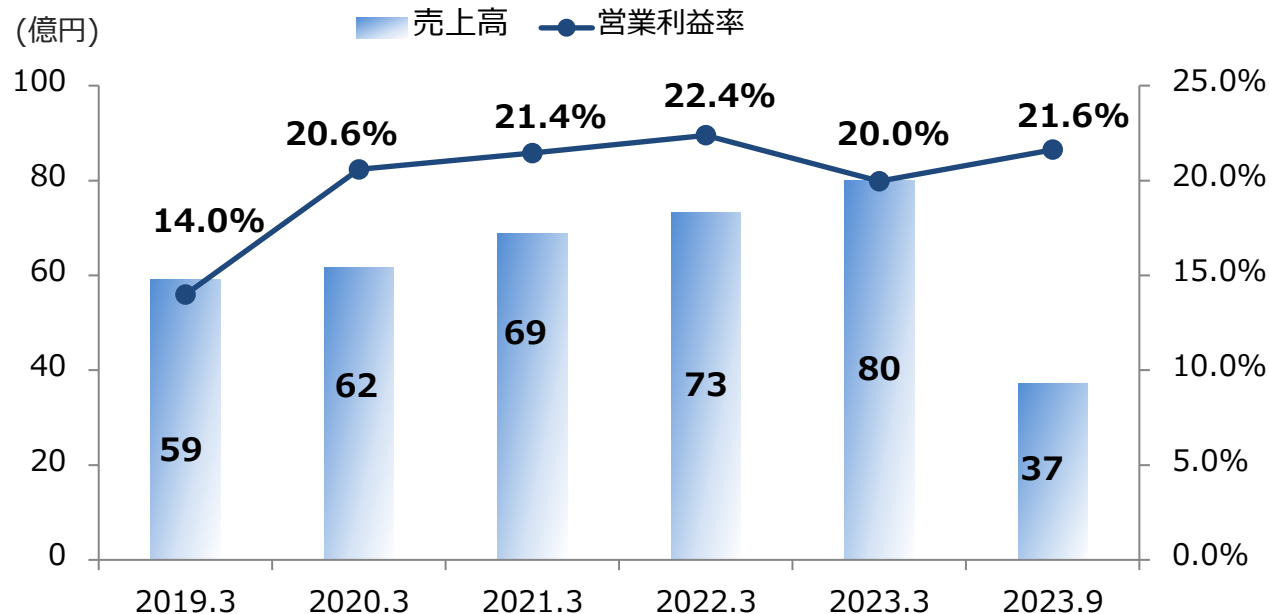
● 前年同期比較

(百万円)

	2022.9	2023.9	増 減	
売上高	2,652	2,763	111	4.2%
営業利益	136	256	120	88.2%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 価格転嫁やコスト削減が進んだことで、増収増益となった。



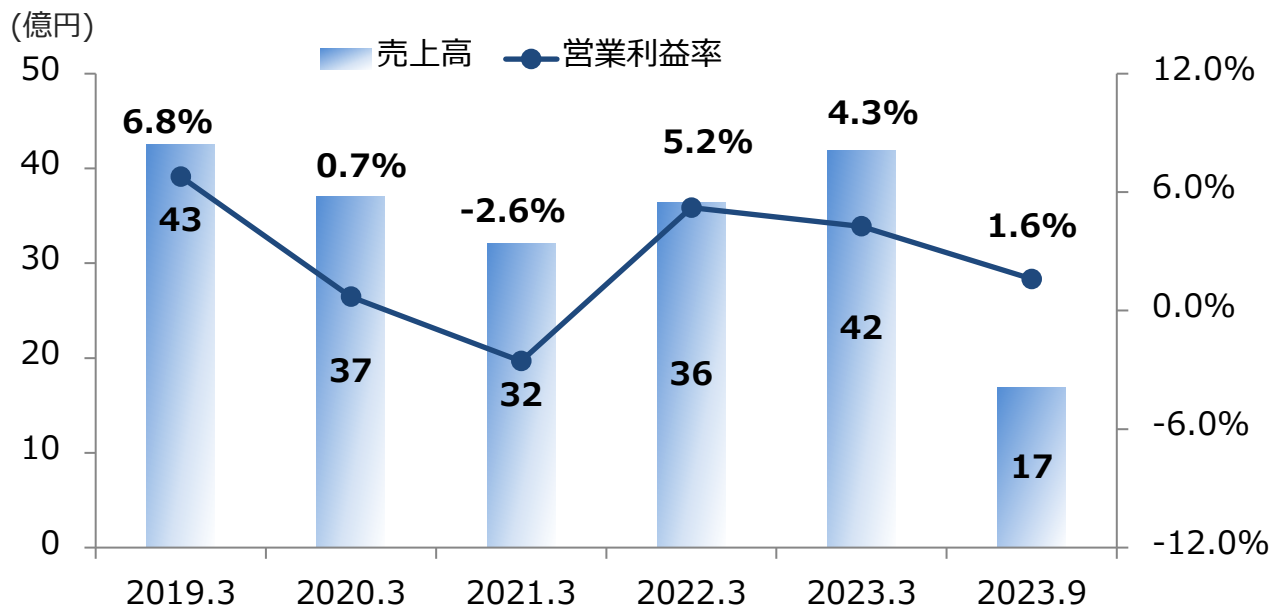
●前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増 減	
売上高	4,383	3,727	▲656	▲15.0%
営業利益	939	806	▲133	▲14.2%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 医薬品原薬中間体は、原薬の販売量は増加したが、医薬品中間体の販売量が減少したため、減収減益となった。
- チオ製品は、プラスチックレンズ向け添加剤の販売量が期初予想よりも上回り、増収となった。しかし、原燃料高に対する価格転嫁は進展しているものの、更なる高騰分の影響は避けられず、減益となった。

触 媒



● 前年同期比較 (百万円)

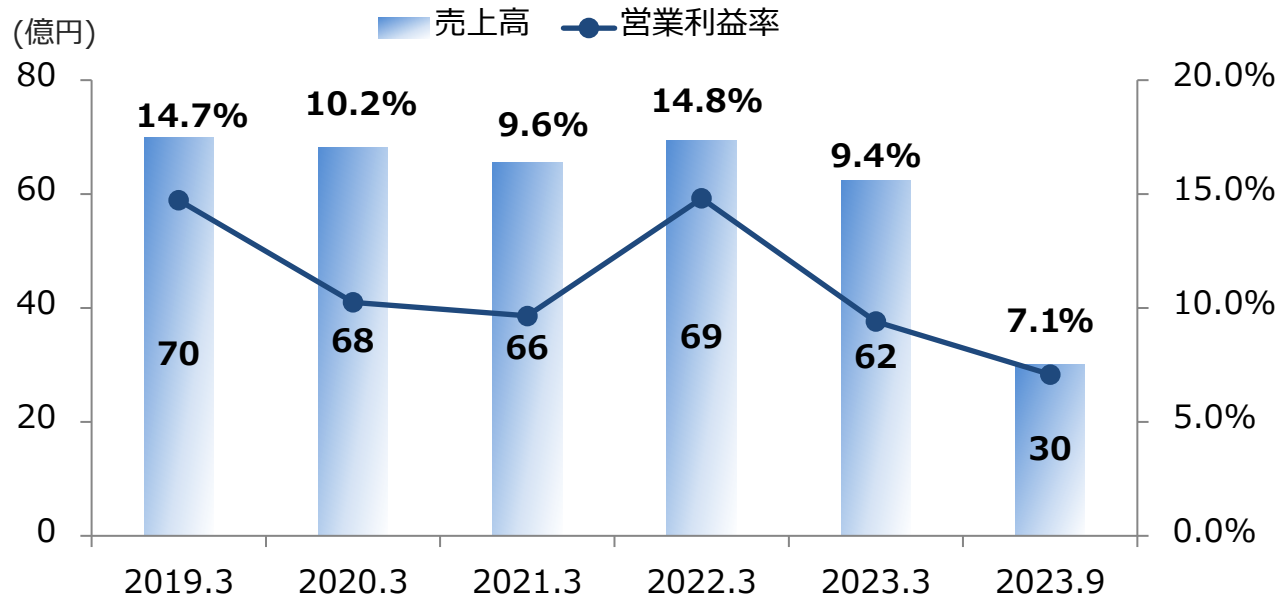
	2022.9	2023.9	増 減	
売上高	2,062	1,689	▲373	▲18.1%
営業利益	104	27	▲77	▲74.0%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 樹脂の水素添加工程などで使用されるニッケル触媒は、原料価格上昇についての価格転嫁が進展し、収益は改善した。
- 火力発電所やごみ焼却施設で使用される脱硝触媒は、前期で業績に貢献した海外向け大型物件の出荷が一段落し、減収減益となった。

受託加工

安定事業

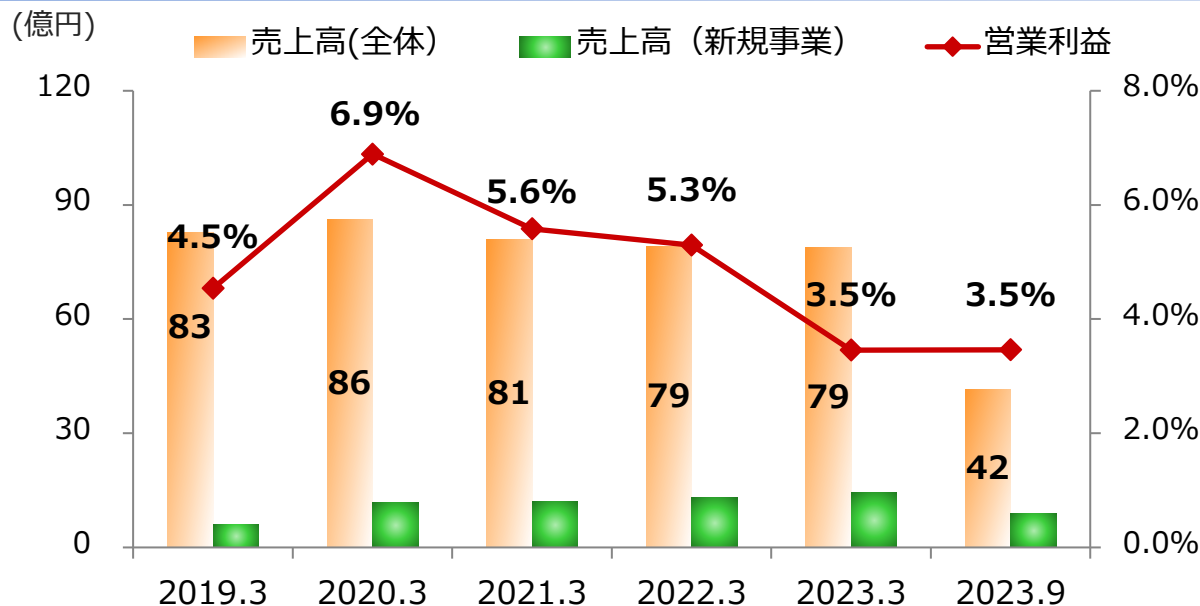


●前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増減	
売上高	3,192	3,009	▲183	▲5.7%
営業利益	368	213	▲155	▲42.1%

2024年3月期 中間決算のポイント

- 加工顔料は、前年同期に比べ自動車関連向けの販売が増加したが、建材向けや浴用剤向けなどの販売が落ち込み、原燃料高の影響を受けたこともあり、減収減益となった。
- 焼成、混合、乾燥等の工程受託は、大型案件が受託終了となり、減収減益となった。



● 前年同期比較 (百万円)

	2022.9	2023.9	増減	
売上高	4,122	4,158	▲36	▲0.9%
営業利益	240	144	▲96	▲40.0%

2024年3月期 中間決算のポイント

- バリウム造影剤は、国内・輸出ともに出荷量が減少し、原材料高の影響も受け、減収減益となった。
- 「アルロイドG」は、薬価引き下げの影響と販売数量の減少で、減収減益となった。
- 医療機器は、内視鏡洗浄消毒器のリニューアル品を上市し順調に出荷台数を伸ばした。
- かぜ薬「改源」など一般用医薬品は、堅調に推移し、増収増益となった。
- 新規事業として注力中の美容医療機関向け製品（紫外線サプリメント）などが期初予想よりも販売量が増加したので、増収増益となった。

2024年3月期 通期業績予想

金額単位：百万円

	2023.3		2024.3					
	通期実績		上期実績		下期予想		通期予想	
		売上高比		売上高比		売上高比		対前期比
売上高	83,861	—	40,471	—	43,529	—	84,000	0.2%
営業利益	4,407	5.3%	917	2.3%	983	2.3%	1,900	▲56.9%
経常利益	4,854	5.8%	885	2.2%	815	1.9%	1,700	▲65.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,344	2.8%	▲ 2,033	—	1,233	2.8%	▲ 800	▲134.1%

- 売上高は、電子材料を中心とした、当初見込んでいた下期からの需要回復が見込めなくなったため、当初計画の91,000百万円から84,000百万円へ下方修正。（▲7.7%）
- 営業利益は、売上高同様に、下期に見込んでいた電子材料での収益などが見込めなくなったため、当初計画の4,500百万円から1,900百万円へ大きく下方修正。（▲57.8%）

2. 期初見込みからの乖離と今後に向けて

2024年3月期 当初予想との乖離

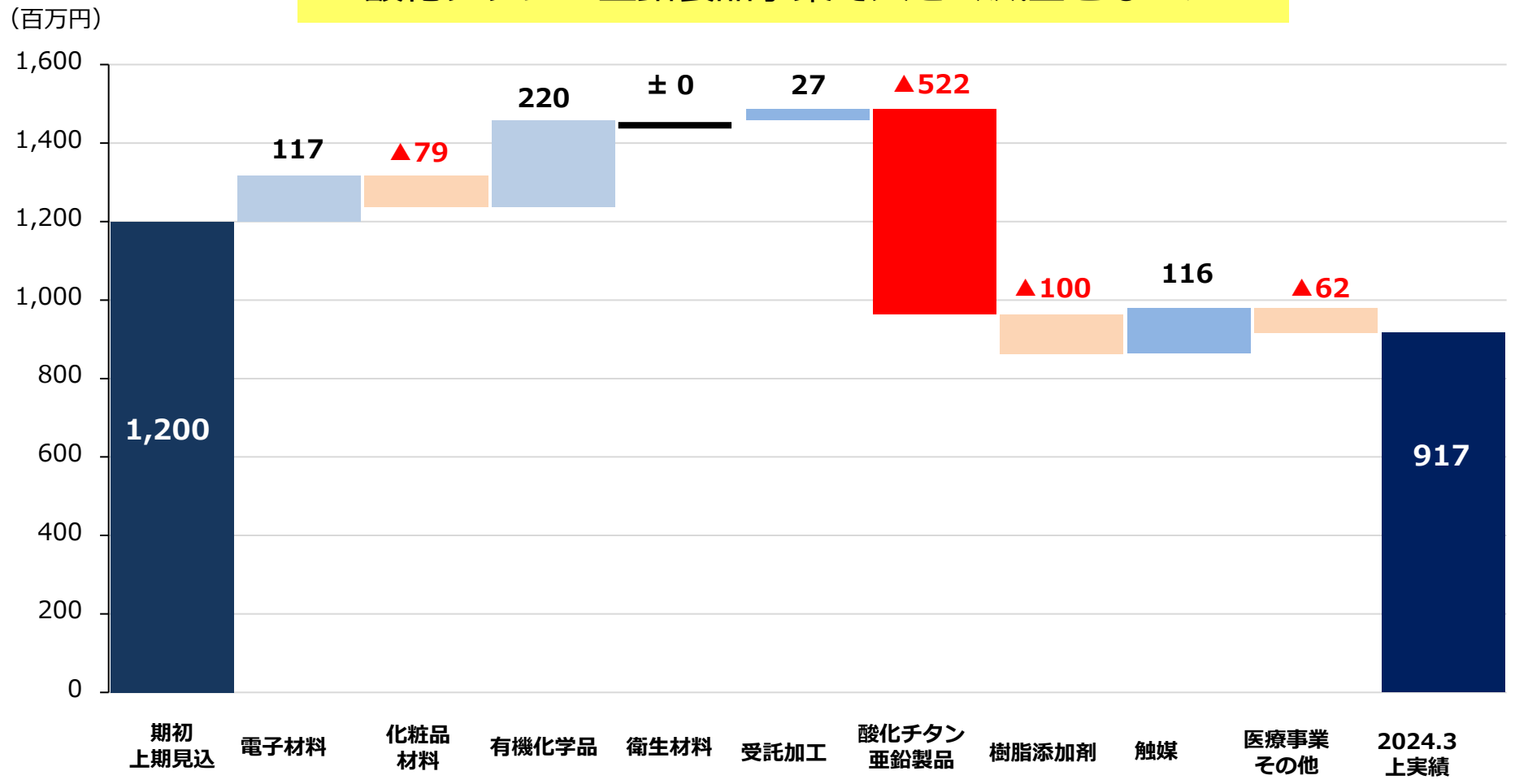
(百万円)

		当初見込み	上期実績	修正見込	増減額	増減率
売上高	上期	43,000	40,471		▲ 2,529	▲5.9%
	下期	48,000		43,529	▲ 4,471	▲9.3%
	通期	91,000		84,000	▲ 7,000	▲7.7%
営業利益	上期	1,200	917		▲ 283	▲23.6%
	下期	3,300		983	▲ 2,317	▲70.2%
	通期	4,500		1,900	▲ 2,600	▲57.8%

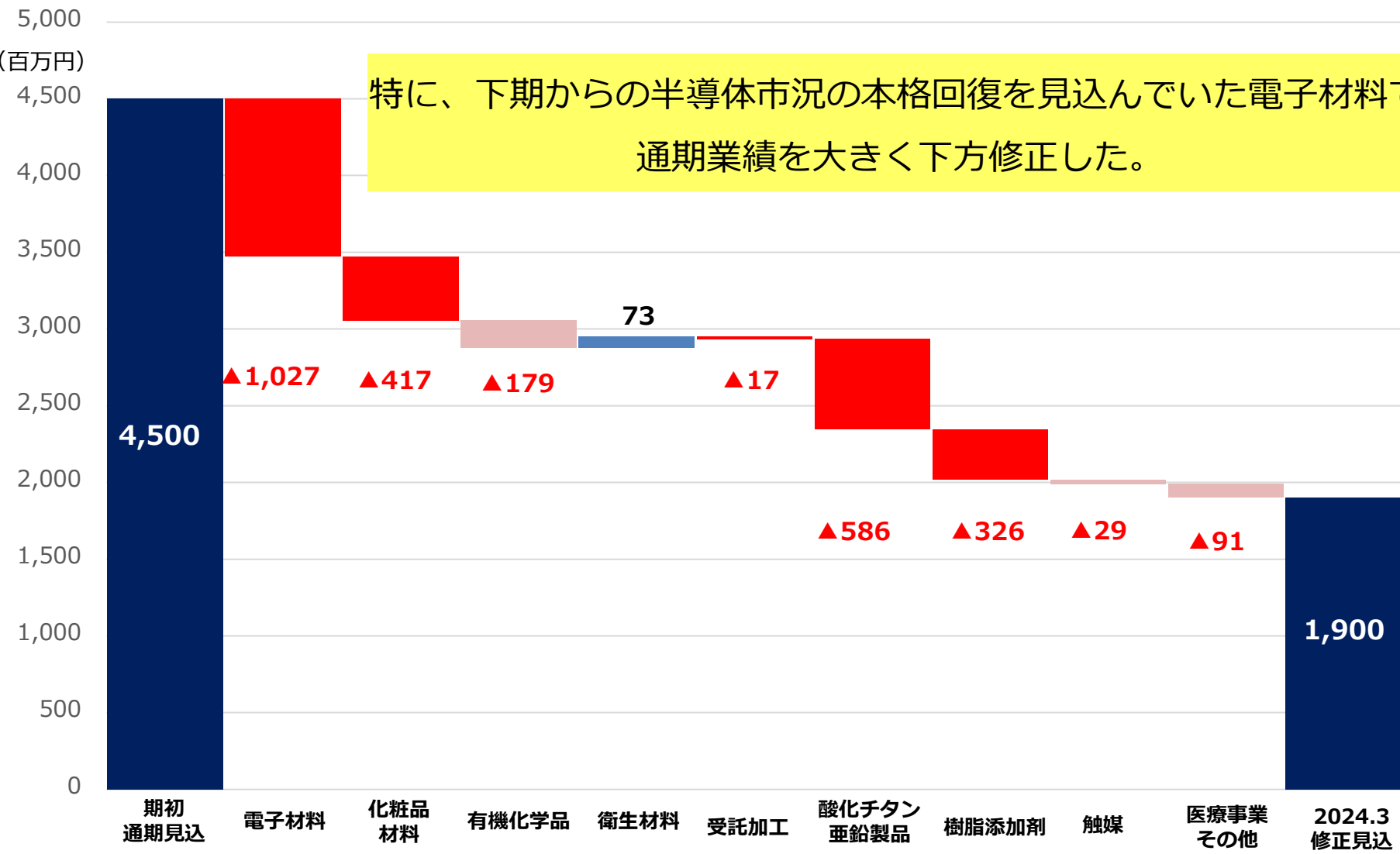
➤ 下期の業績見通しが、期初予想に比べ大きく下方修正となった。

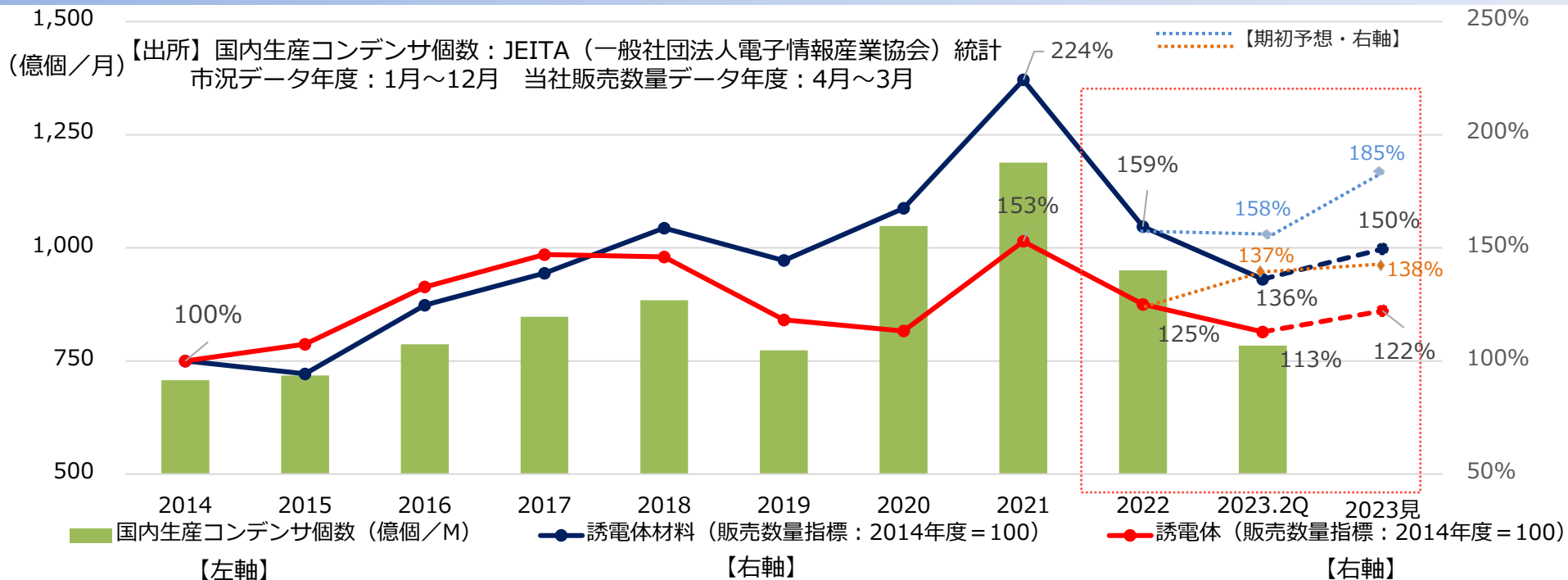
2024年3月期 上期当初予想との差額内訳（サブセグメント別）

期初予想を上回ったサブセグメントもあったが、酸化チタン・亜鉛製品事業で大きく減益となった



2024年3月期 通期当初予想との差額内訳（サブセグメント別）





半導体市況のV字回復は見込めないが、ゆるやかな市況の回復とともに、当社販売量も回復に向かう見込み。

今後

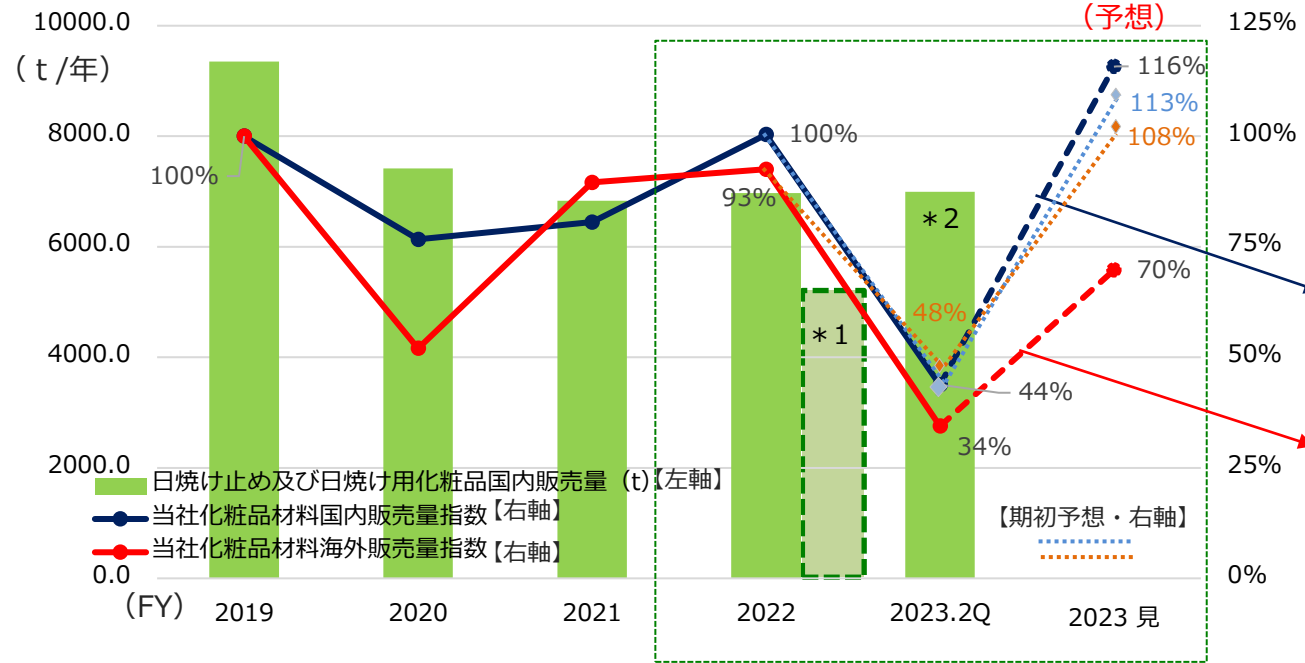
誘電体

水熱合成法が得意な粒子の微細化技術を活かし、小粒子径でのボリュームゾーンに注力中。

誘電体材料

国内生産コンデンサ個数の生産回復・増加に対する、当社生産体制は整備済みであり、まずはその稼働率を高めていく。

【化粧品材料】 海外向け販売量が不振・国内向け販売量は増加見込み



出所：
 経済産業省生産動態年表（日焼け止め及び日焼け用化粧品国内販売量）年度：1月～12月
 【*1】2022年1月～8月までの総量
 【*2】2023年1月～8月までの総量

【国内】
 夏場の日焼け止め消費の回復を背景に、材料としての需要期である下期に数量を伸ばす見込み

【海外】
 FY2021～2022にかけてのコロナ明け直後の出荷分の在庫調整が継続中。中国の消費低迷による当社出荷量への影響は精査中。

成長戦略

組織改編	コスメティック・イノベーション部の設立。 マーケティング・開発・営業の集約による材料開発・提案力の強化を図る
海外展開	米国を中心に、営業を強化していく。米国以外も、エリア特有の化学物質規制対応をしながら、供給体制を強化していく。
新規分野	Zn・Ti以外にも、BaやCaといった豊富な元素の取り扱い実績を活かし、日焼け止め以外の化粧品分野への展開を図っていく。（メイク材料）



【出所】 国内市況：経済産業省 化学工業統計（PVC出荷数量）

.....【期初予想・右軸】

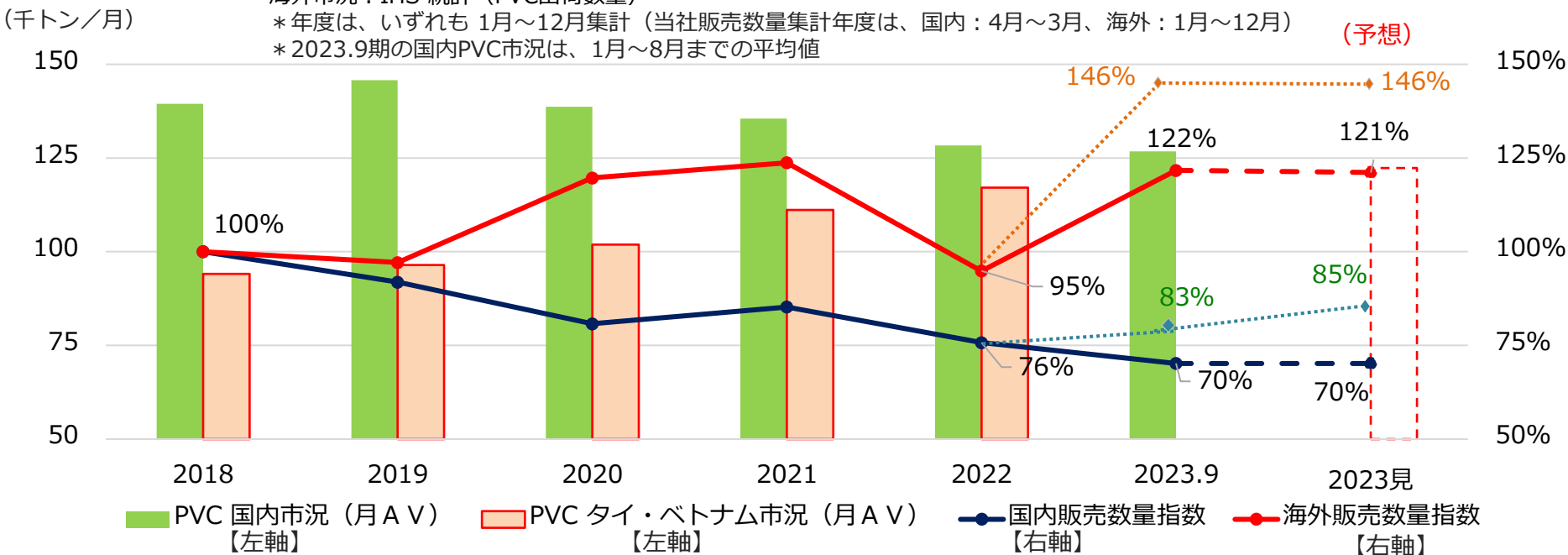
* 2018年度販売数量 = 100%

海外市況：IHS 統計（PVC出荷数量）

* 年度は、いずれも 1月～12月集計（当社販売数量集計年度は、国内：4月～3月、海外：1月～12月）

* 2023.9期の国内PVC市況は、1月～8月までの平均値

(予想)

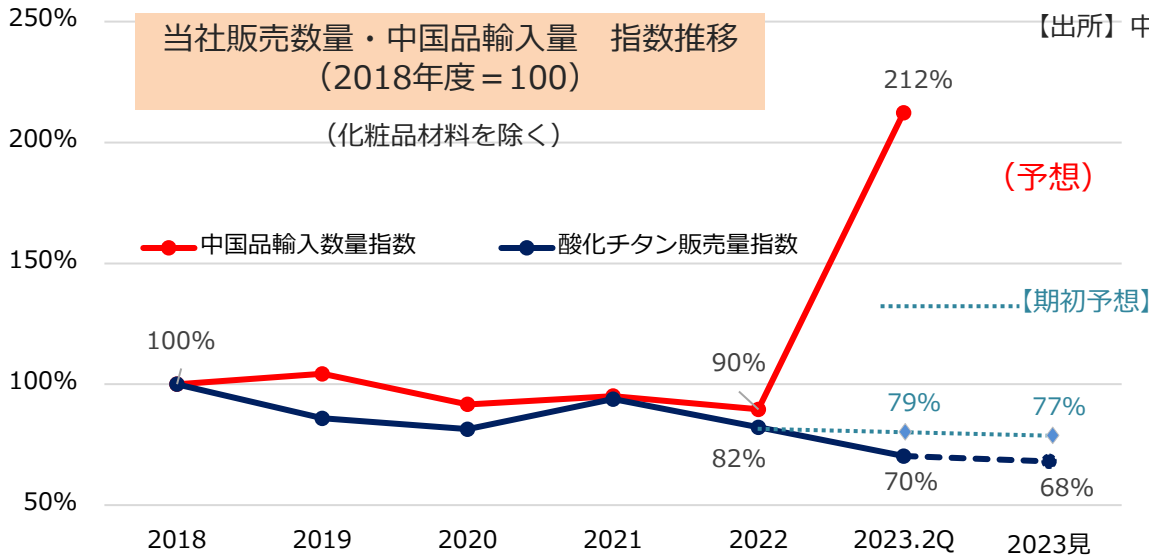


- ▶ タイ・ベトナムを中心に、中長期的な東南アジアでの灌漑用設備・インフラ整備需要は拡大していく。現地での機動的な営業活動のために、現地スタッフの本社工場での技術研修を実施中。
- ▶ 足元海外向け販売数量は、鉛系から非鉛系安定剤への切り替えの過渡期により鉛系安定剤の販売が振るわなかった。

	2018	2019	2020	2021	2022	2023 2Q	2023
* 海外比率	31.8%	33.1%	40.9%	40.4%	36.9%	44.8%	44.6%

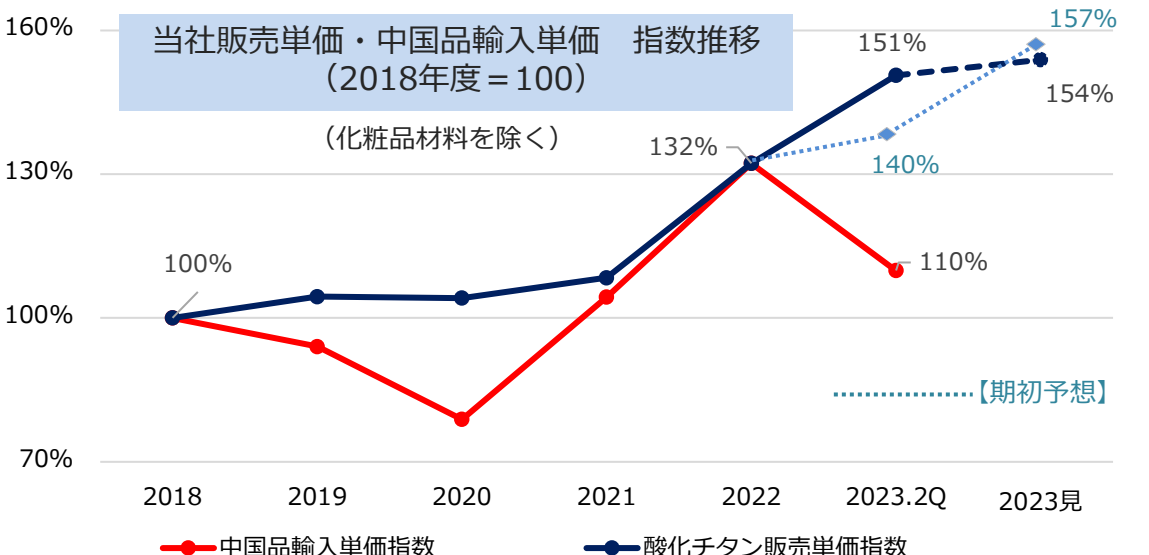
* タイ・ベトナム両現地子会社での、現地販売数量を元に試算

【予想】



**** 販売数量のポイント ****
 コロナ禍以降、中国品の国内輸入量は減少傾向であったが、2023年度からは大幅に増加。当社販売量は、2021年度に一時的に増加したものの、減少傾向。

**厳しい外部環境の中、
中国品の動向も見極めながら、
継続している販売価格の是正だけでなく
追加策を講じていく**



**** 販売単価のポイント ****
 中国品の販売単価は2023年度に入り、大きく下落。当社販売単価は、再三に渡る価格改定で、上昇を続け、足元その差は広がった。

【総括】

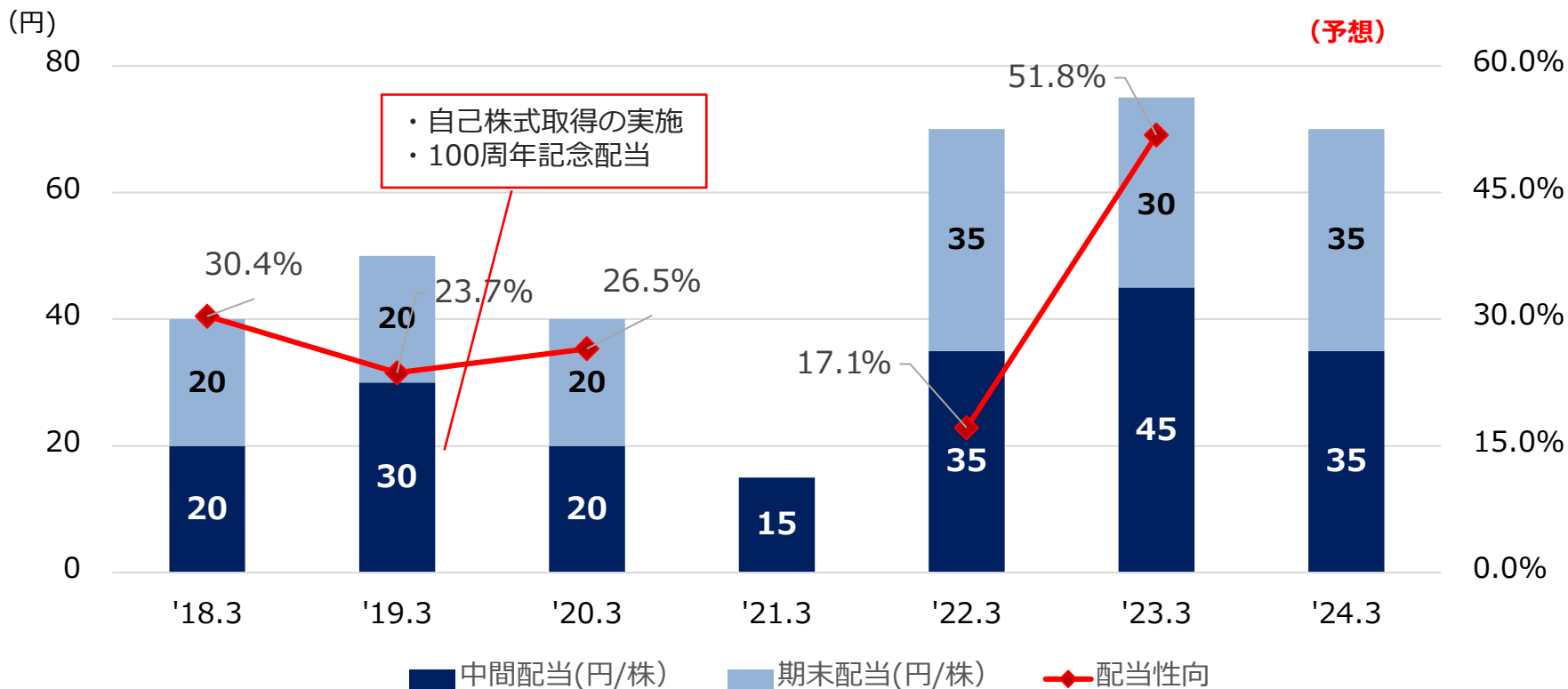
成長事業：販売量増に向けての準備は整備済み
効率化検討事業：樹脂添加剤の海外展開以外は量は追わず、収益改善に努める。

		足元	今後
成長事業	電子材料	<ul style="list-style-type: none"> 民生品を中心としてMLCCの生産個数の生産調整局面により、当社販売数量も低調が続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調整局面が終わり、自動車のEV化の広がりや5G・6G関連電子機器のさらなる広がりとともに販売量は増加する見通し。 それに向けた設備投資や、堺商事の完全子会社化を含む原材料調達の強化は実施済み。
	化粧品材料	<ul style="list-style-type: none"> 国内は、コロナ禍が明け、日常生活への戻りもあり、需要は回復してきている。 海外は、コロナ明け直後に出荷した分の在庫調整が依然続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内は、日焼け止めへの意識の高まりのあり、順調に数量を伸ばしていく見通し。 海外は、在庫調整が落ちつけば、徐々に出荷は上向く見込み。中国関連は精査を継続。 メイク材料分野を開拓する。
効率化検討事業	酸化チタン・亜鉛	<ul style="list-style-type: none"> 中国品による安価品が多量に日本国内に輸入されており、足元厳しい販売状況が続く見通し。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存施策は継続し、数量は追わず、販売価格の改定を進めていく。 追加施策を講じて、収益の改善を急ぐ。
	樹脂添加剤	<ul style="list-style-type: none"> 国内は、PVC市況も下降傾向で、販売の増加は厳しい見込み。 海外は、PVC市況の拡大とともに、鉛系から非鉛系安定剤への切り替えが進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 低採算品の価格是正 or 廃番を進め、国内から海外への販売ポートフォリオの改善を進めていく。 海外は、灌漑対策向けの管材需要が期待でき、タイ・ベトナム現地を中心に、非鉛系安定剤の現地拡販に注力する。



3. 株主還元（配当） ・ 設備投資等見込

株主還元



【剰余金の配当の基本方針】

配当性向**30%以上**を目安に利益還元を実施（2回／年）

【2024年3月期について】

1株当たり**年間70円（中間35円、期末35円）**の配当を実施見込み

設備投資・減価償却・研究開発費推移・予想

金額単位：百万円

	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2023.9	2024.3
設備投資	6,891	8,403	9,567	5,967	2,658	1,646	3,500
減価償却費	3,189	3,686	4,243	4,331	4,417	2,255	4,500
研究開発費	2,951	2,898	2,487	2,376	2,674	1,359	3,000

(予想)

- ・設備投資

現中計前半で実施したほどの大型投資はなく、足元は必要な維持更新費用を計上予定。

- ・研究開発費

パイロットスケール品の早期製造移管や、医薬原薬中間体のCDMO化に向けた取り組みを加速させるため、スタッフの補充や教育に資金を投じていく。

質 疑 応 答

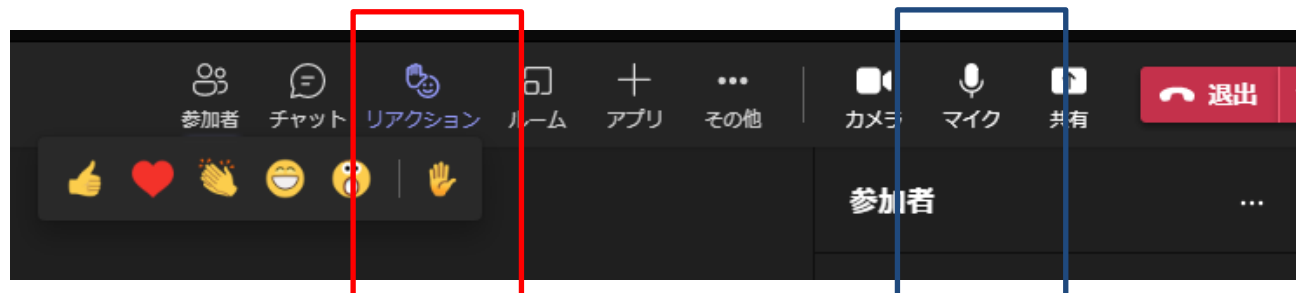
■ 質疑応答の順番

① 会場にお越しの皆様 → ② WEBでご参加の皆様

* 恐れ入りますが、WEBでご参加の皆様は、①での質疑終了までお待ち願います。

* 会場の時間の関係上、WEBからのご質問をお受けできない可能性がありますこと、予めご了承ください。

■ WEBからの質疑方法



- ご質問のある方は画面上の「**リアクション**」から挙手をお願いします。
- 同時に複数の方が手を挙げられた場合には、順番にご案内します（手を挙げるボタンは押したままにしてください）。
- ご質問者は事務局より**マイクミュート**を解除しますので、ご発言を開始してください。（※その際お名前をお呼びすることになります。当社HPに公開する書起しではお名前を伏せますが、アナリスト協会様での公開分では、お名前は公開されます。その旨、ご了承ください。）
- 質疑応答が終わりましたら同じ「**リアクション**」機能から手をおろし、また**マイク**をオフにしてください。

参 考 資 料

- 当社概要
- 事業紹介
- 業績推移等



堺化学工業(株) 会社概要

本 社	堺市堺区戎島町5丁2番地
代 表 者	代表取締役社長 矢倉 敏行
創 業	1918年6月
事業内容	無機化学工業製品、有機化学品、医薬品の 開発・製造・販売
総 資 産	131,575百万円
純 資 産	80,656百万円
関係会社	連結子会社16社（国内8社、海外8社）
従業員数	連結2,029名／単体770名（2023年9月末現在）

当社グループについて

化 学【製造・販売】

堺化学工業(株)

大崎工業(株)

レジノカラー工業(株)

共同薬品(株)

SC有機化学(株)

日本カラー工業(株)

(株)片山製薬所

SAKAI CHEMICAL(VIETNAM) CO., LTD.

SIAM STABILIZERS AND CHEMICALS CO., LTD.

PT. S&S HYGIENE SOLUTION

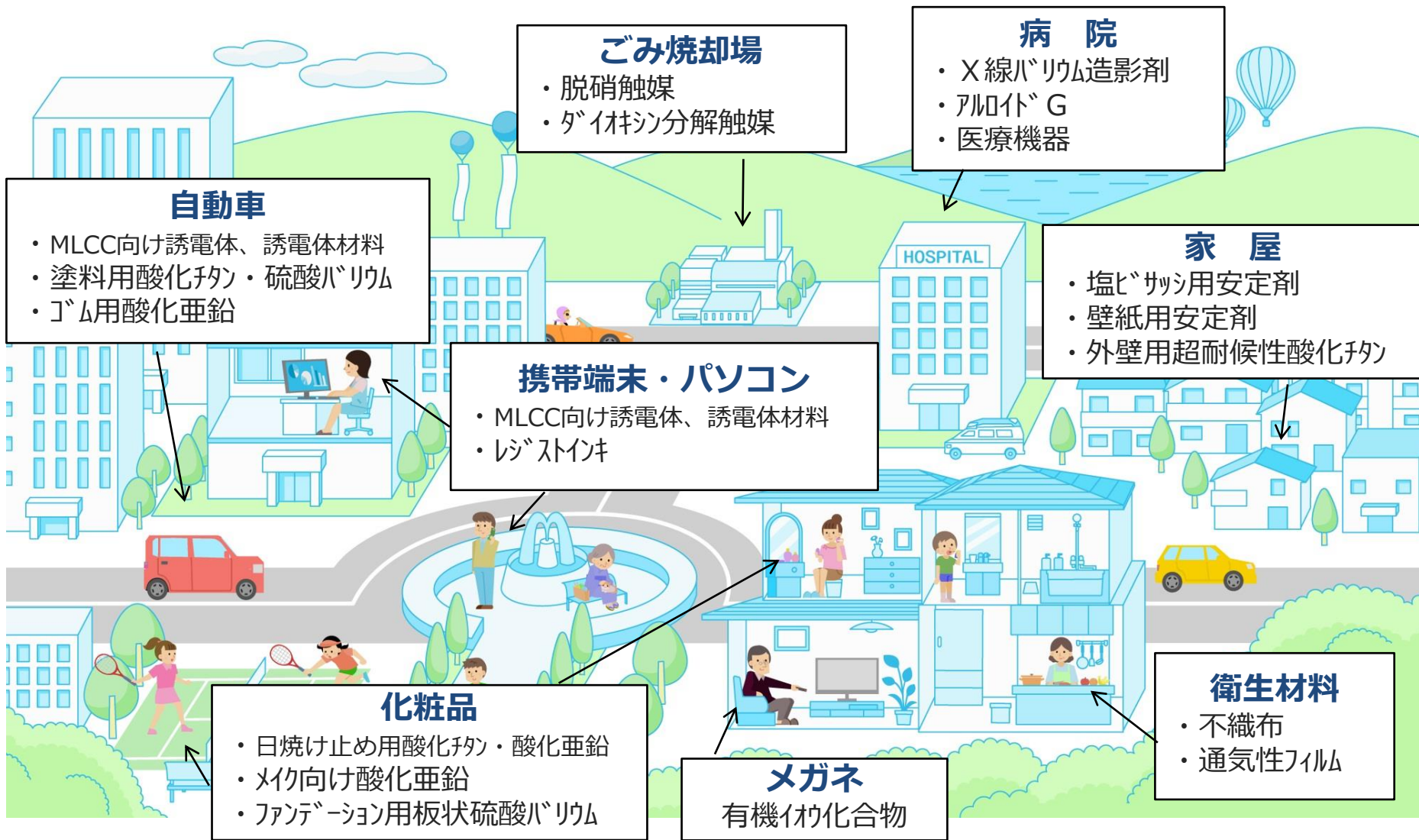
化 学【販 売】

堺商事(株)

医 療【製造・販売】

カイゲンファーマ(株)

暮らしに息づく当社グループ製品



事業内容と売上高構成

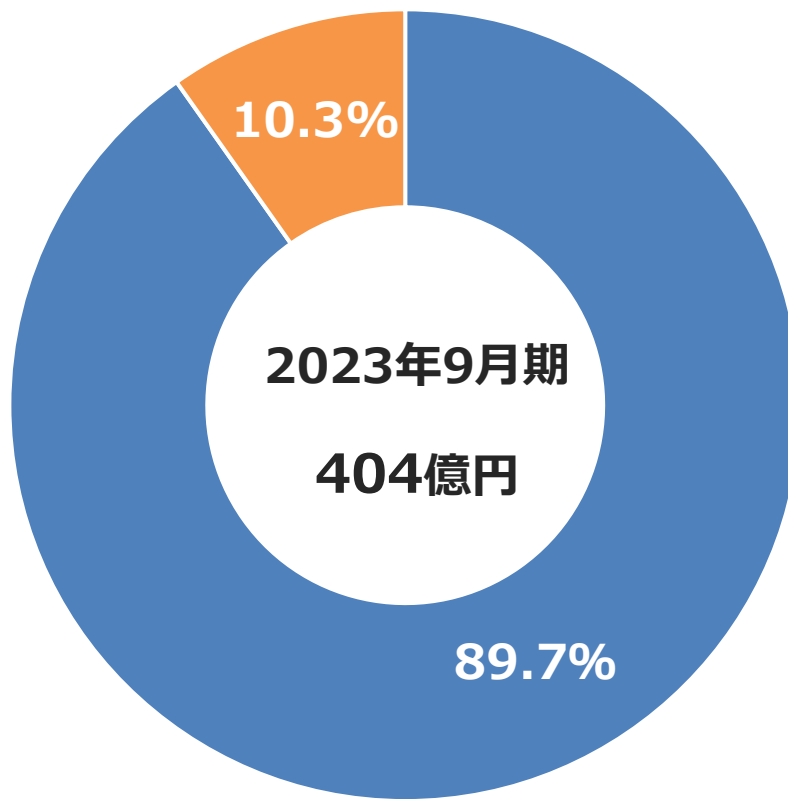
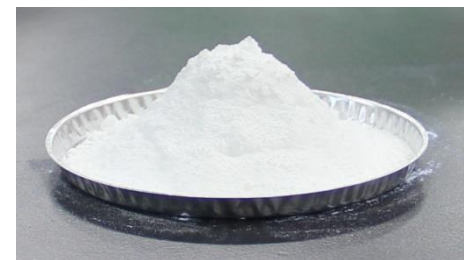
医療

バリウム製剤、アルギン酸ナトリウム製剤、医療機器、改源ブランドを柱として、医療用から一般向けまで幅広く医療と健康に貢献する製品・サービスを提供しています。



化学

天然鉱石から加工する技術や粉体をコントロールする技術などにより、さまざまな分野に素材を展開している主力事業です。

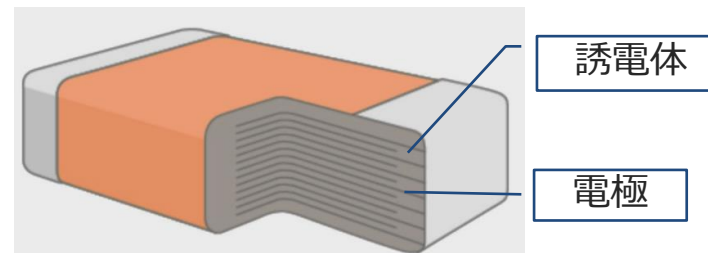


事業の紹介 <化学>

電子材料

積層セラミックコンデンサ

- ・誘電体 (チタン酸バリウム)
- ・誘電体材料 (高純度炭酸バリウム)



電子機器には欠かせない積層セラミックコンデンサのメイン材料。

誘電体は電気をたくさん貯める性質を持ちます。

当社は、微細で形が均一に揃った球状の誘電体を開発し、コンデンサの性能向上に貢献していきます。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

酸化チタン・亜鉛製品

- ・酸化チタン…着色力、隠ぺい力、耐候性、化学的安定性に優れる白色顔料
- ・酸化亜鉛…ゴム製品の加硫促進助剤
- ・化粧品材料…高い紫外線遮蔽や滑らかな肌触りを実現

酸化チタンは、塗料やインキ、製紙、プラスチック、化学繊維などあらゆる分野に必要とされる素材です。

酸化チタン、酸化亜鉛ともに微細にすると紫外線遮蔽率が高まるため、日焼け止めやファンデーションにも活躍しています。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

樹脂添加剤

パイプ、継手、窓枠、壁紙、ワイヤーハーネス

- ・ 塩ビ安定剤 ・ 非塩ビ安定剤
- ・ ハイドロタルサイト ... 非鉛系塩ビ安定剤や
高い保温性と透明性から農業用フィルムに



塩ビ安定剤は、樹脂の加工性向上や劣化抑制などのために添加されます。現在、世界的に塩ビ安定剤の脱鉛化が進んでおり、非鉛系への切替えが加速しています。

ベトナム子会社では非鉛系安定剤およびその原料となるハイドロタルサイトを製造、タイ子会社では鉛系・非鉛系安定剤を製造し、いずれも東南アジアを中心に販売を拡大しています。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

衛生材料

おむつ、生理用品

- ・ 通気性フィルム … 水分を留めて空気だけを通す

海外で需要が増加している中、インドネシア子会社では通気性フィルムを製造しています。

こんなところに
使われています



有機化学品

プラスチックレンズ、コンクリート、潤滑油、医薬品

- ・ 有機イオウ化合物 … メガネレンズの屈折率向上、
コンクリート混和剤としても
- ・ 有機リン化合物 … 潤滑油添加剤に
- ・ 医薬品原薬・中間体

こんなところに
使われています

有機イオウ化合物BMPAを国内で唯一製造しています。



事業の紹介 <化学>

触 媒

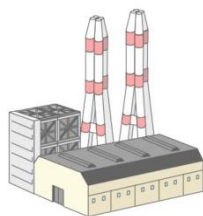
ごみ焼却場、火力発電所、マーガリン、接着剤、光学フィルム

- ・脱硝触媒 … 窒素酸化物を除去
- ・プロセス触媒(ニッケル触媒) … 油脂・樹脂の水素化など

ニッケル触媒は使用先の光学フィルムや紙おむつ接着剤の需要増加に伴い、事業を拡大を目指しています。



こんなところに
使われています



受託加工事業

無機・有機化学工業製品の受託製造

…顔料、着色剤、機能性インキ、触媒、樹脂添加剤など

さまざまな機械を取り揃え、幅広い分野に対応しています。



事業の紹介 <医療>



カイゲンファーマ(株)

X線バリウム造影剤

…消化管撮影



1931年に原料となる薬用硫酸バリウムの製造を開始。

定期検診でお馴染みのものですが、海外への輸出も行っています。

医療機器

・内視鏡用洗浄消毒器



バリウムから胃カメラ検診への移行に対応。

薬価改定の影響を受けない事業と位置付け、開発に注力しています。

アルロイドG

…消化性潰瘍・逆流性食道炎治療薬

胃・十二指腸潰瘍の止血や粘膜保護、逆流性食道炎における自覚症状を改善。



一般用医薬品

- ・「改源」シリーズ
- ・カイゲン顆粒
- ・カイゲンパックIB顆粒



「メイドインジャパン」品質で台湾市場への販売を開始。

化学事業の製品別売上高・営業利益推移

金額単位：百万円

		2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2023.9
電子材料	売上高	8,033	8,948	8,499	9,723	10,857	8,939	4,097
	営業利益	969	651	117	23	1,700	946	24
化粧品材料	売上高	1,370	2,121	2,534	1,698	2,460	2,790	1,194
	営業利益	296	429	735	292	301	430	▲ 8
酸化チタン・亜鉛製品	売上高	14,388	14,220	12,771	11,866	13,257	15,067	7,082
	営業利益	328	▲ 125	▲ 125	227	744	▲ 34	▲ 519
樹脂添加剤	売上高	11,934	12,745	12,583	11,543	12,489	13,354	6,944
	営業利益	529	248	169	397	966	404	273
衛生材料	売上高	8,558	8,006	8,070	9,254	5,388	5,496	2,763
	営業利益	100	246	174	440	331	327	256
有機化学品	売上高	5,979	5,919	6,172	6,882	7,321	8,014	3,727
	営業利益	548	828	1,271	1,476	1,639	1,600	806
触 媒	売上高	3,427	4,257	3,703	3,210	3,644	4,193	1,689
	営業利益	89	289	26	▲ 82	190	179	27
受託加工	売上高	6,721	7,000	6,811	6,550	6,947	6,244	3,009
	営業利益	882	1,031	698	632	1,029	587	213
その他	売上高	17,218	18,040	17,412	16,079	9,875	11,890	5,804
	営業利益	800	432	356	447	170	▲ 305	▲ 301
合 計	売上高	77,628	81,256	78,555	76,821	72,243	75,992	36,313
	営業利益	4,541	4,029	3,421	3,851	7,076	4,135	772

注：営業利益から本社部門費を差し引いた値です。

化学事業の四半期推移

金額単位：百万円

	2022.3				2023.3				2024.3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	17,695	18,113	17,544	18,890	19,455	19,116	18,918	18,502	19,091	17,221
電子材料	2,660	2,426	3,144	2,627	2,685	2,271	1,984	1,998	2,144	1,953
化粧品材料	552	464	595	847	714	634	632	809	630	563
酸化チタン・亜鉛製品	3,376	3,098	3,324	3,459	3,841	3,755	3,912	3,557	4,241	3,401
樹脂添加剤	3,090	3,118	3,148	3,132	3,281	3,430	3,291	3,350	3,382	3,561
衛生材料	1,283	1,223	1,503	1,379	1,225	1,426	1,458	1,385	1,399	1,364
有機化学品	2,250	2,171	1,089	1,810	2,172	2,211	1,496	2,133	2,465	1,262
触媒	661	824	961	1,197	910	1,151	981	1,150	662	1,026
受託加工	1,849	1,739	1,618	1,740	1,704	1,487	1,585	1,467	1,543	1,465
その他	1,974	3,046	2,160	2,698	2,919	2,747	3,574	2,649	3,181	2,622
営業利益	2,111	2,012	1,452	1,501	1,736	1,289	762	347	871	▲ 99

注：営業利益は本社部門費を差し引いた値です。

医療事業の製品別売上高推移

金額単位：百万円

	2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2023.9
バリウム	2,327	2,265	2,291	2,043	1,924	1,882	994
アルロイドG	860	990	1,221	1,193	1,167	1,061	489
医療機器	2,290	2,373	2,445	2,453	2,611	2,635	1,379
一般用医薬品	1,463	1,190	1,144	1,026	812	853	411
その他	1,645	1,608	1,722	1,557	1,377	1,435	884
合計	8,585	8,426	8,823	8,272	7,892	7,868	4,158

ご清聴ありがとうございました。

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。

また、2021年3月期以前の化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。